

令和4年度 第1回 練馬区立学校(園)における教員の働き方改革推進委員会

1 委員長挨拶

- ・これまで基本的な推進計画を策定し、教育委員会においては、サポート人材の配置や各種システムの導入など、また、学校においては、学校行事の縮減などコロナ禍を契機とした業務の抜本的な見直しを行い、教員の負担軽減に一定の成果を挙げてきたと認識している。
- ・しかし、出退勤管理システムでの勤務状況を見ると、教員の約半数が45時間を超える時間外在校時間の実態にあり、特に、副校長は、8割がその対象になっている。

2 議題と主な意見

(1) 働き方改革の現状および課題について：<資料>教育指導課

- ・本区は、都の「学校における働き方改革推進プラン」を基に、平成31年3月「練馬区立学校(園)における教員の働き方改革推進プラン」を策定した。
- ・本プランの具現化を通じて働き方改革を推進してきた。これまでの成果および課題は資料に記載のとおりである。

<主な意見> 「 」は事務局の回答

- ・土日を含めた部活動による超過勤務時間をどのように捉えていくかという点も考えていく必要がある。
超過勤務時間については、土日の部活動による勤務も含めて考えていかななくてはならない。
- ・若手教員の超過勤務については、仕事の効率化ができていないことが原因のひとつとして考えられる。主幹教諭の超過勤務については、業務の内容上どうしても負担が多くなっている。また、時間外に保護者対応をする場面がどうしても出てきてしまうことが超過勤務につながっている。

(2) 今後の働き方改革の推進について：<資料>教育指導課

- ・これまでの課題を受け、資料に記載の取組を今後行っていく。
- ・自校での取組事例の紹介にご協力いただきたい。

<主な意見>

- ・課題を確認するためにも、部活動を除いた超過勤務時間の実態調査も進めるとよい。
事務局で検討していく。
部活動の在り方については、本委員会とは別に部会を設けてガイドラインを策定してきたため、今後も部活動の地域移行も含め検討していく。
- ・今後の取組において、各種会議・研修の約5割のオンライン化と記載されているが、現状はどれくらいか。
今年度より講義型の研修等はすでにオンライン化しているものもある。全体で5

割以上を目指していく。

- ・練馬区は広いので、区役所に集まるとしても片道 1 時間以上かかる学校もある。会議や研修のオンライン化を積極的に進めてほしい。
- ・学校生活支援員については、欠員が生じている学校がある。資料に記載のとおり、雇用形態の見直しをするなど、確保に努めてほしい。
- ・提出書類等の電子化は東京都も進めていく動きがある。練馬区でも電子化を積極的に進めてほしい。印刷機器や採点ツールにおいても、働き方改革につながるハードやソフトがあるため、検討を進めてほしい。
- ・ハードやソフトの導入については、数年後を見据えた計画を立ててほしい。
- ・男性教員の積極的な育休取得など、数値に現れない教員の意識面での成果もある。

(3) その他

< 主な意見 >

- ・働き方改革の推進について、学校間で意識差が一定程度あるように感じている。
- ・遅くまで職場に残ることが美德と考えている教員がいることも事実であり、改善が難しい部分もある。時間が掛かりすぎている会議もあるため、精選を図る必要がある。
- ・週に一度は 17 時退勤、遅くとも 19 時には退勤するよう声掛けをしているが、単純に時間で区切ることができないこともある。
- ・教育委員会主催の研修と学校で行う研修の内容をすり合わせ、それぞれの内容を精査していくことで、働き方につながる部分もあるのではないかと。